

事務連絡  
平成27年7月22日

都道府県労働局労働基準部長 殿

厚生労働省労働基準局補償課  
労災補償訟務分析官

訴訟関係業務に係る資料の送付について

労災行政事件訴訟における的確な訴訟追行のため、平成26年度下半期の主要判決について、その判決要旨及び勝訴・敗訴の要因分析を行った資料を別添のとおり取りまとめたので、局暑の担当者に情報提供を行うことにより、業務の参考とされたい。

なお、本年度より、主要判決の分析・取りまとめについては、本年4月に労働基準局補償課に配置された労災補償訟務分析官が、労災保険審理室の協力を得つつ、行うこととなったので、併せてお知らせする。

# 平成 26 年度（下半期）主要判決

平成 27 年 7 月

労働基準局補償課  
労災補償訟務分析官

# 平成 26 年度（下半期）の主要判決

## <はじめに>

労災行政事件訴訟については、平成 26 年度（下半期）には、99 件の判決（勝訴 86 件、敗訴 13 件）があり、このうち主要なもの 26 件（勝訴 13 件、敗訴 13 件）について、勝訴・敗訴の要因分析を行ったので、局暑の担当者に幅広く周知を行うことによって、業務の参考にしていただきたい。

特に、脳・心臓疾患事案及び精神障害事案の敗訴判決（10 件）の主要な敗訴要因を見ると、下記のとおり、① [REDACTED]（5 件）、② [REDACTED]（9 件）、③ [REDACTED]（4 件）となっており、今後の業務遂行に当たっては、同様の事態が繰り返されることのないように、十分に留意していただく必要がある。

## 記

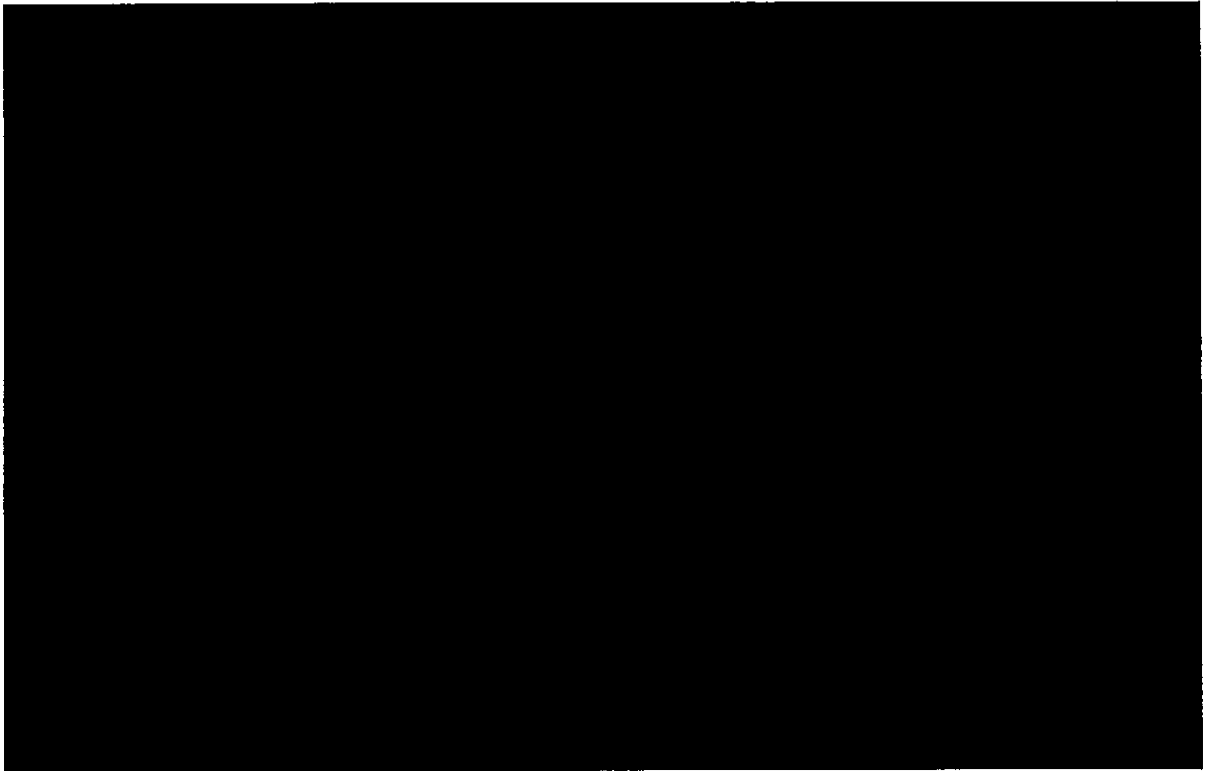
### 1 脳・心臓疾患事案

(1) [REDACTED]

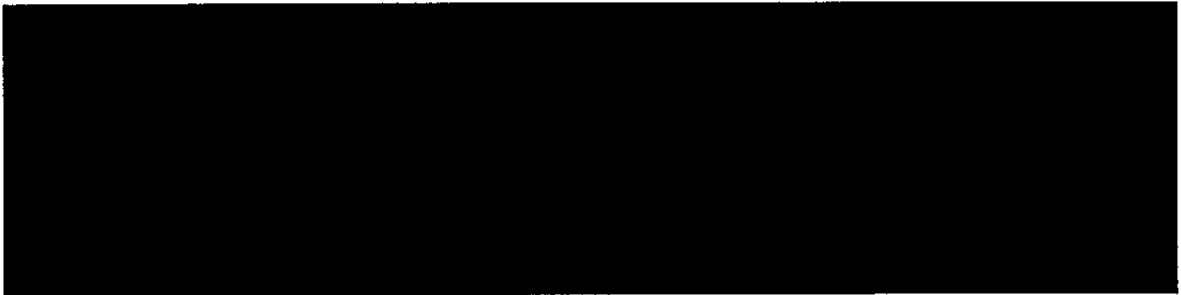
[REDACTED]

(2) [REDACTED]

[REDACTED]

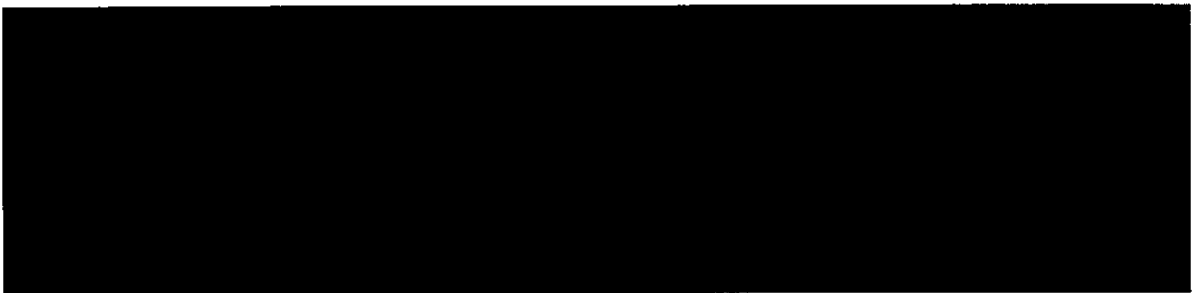


(3) 



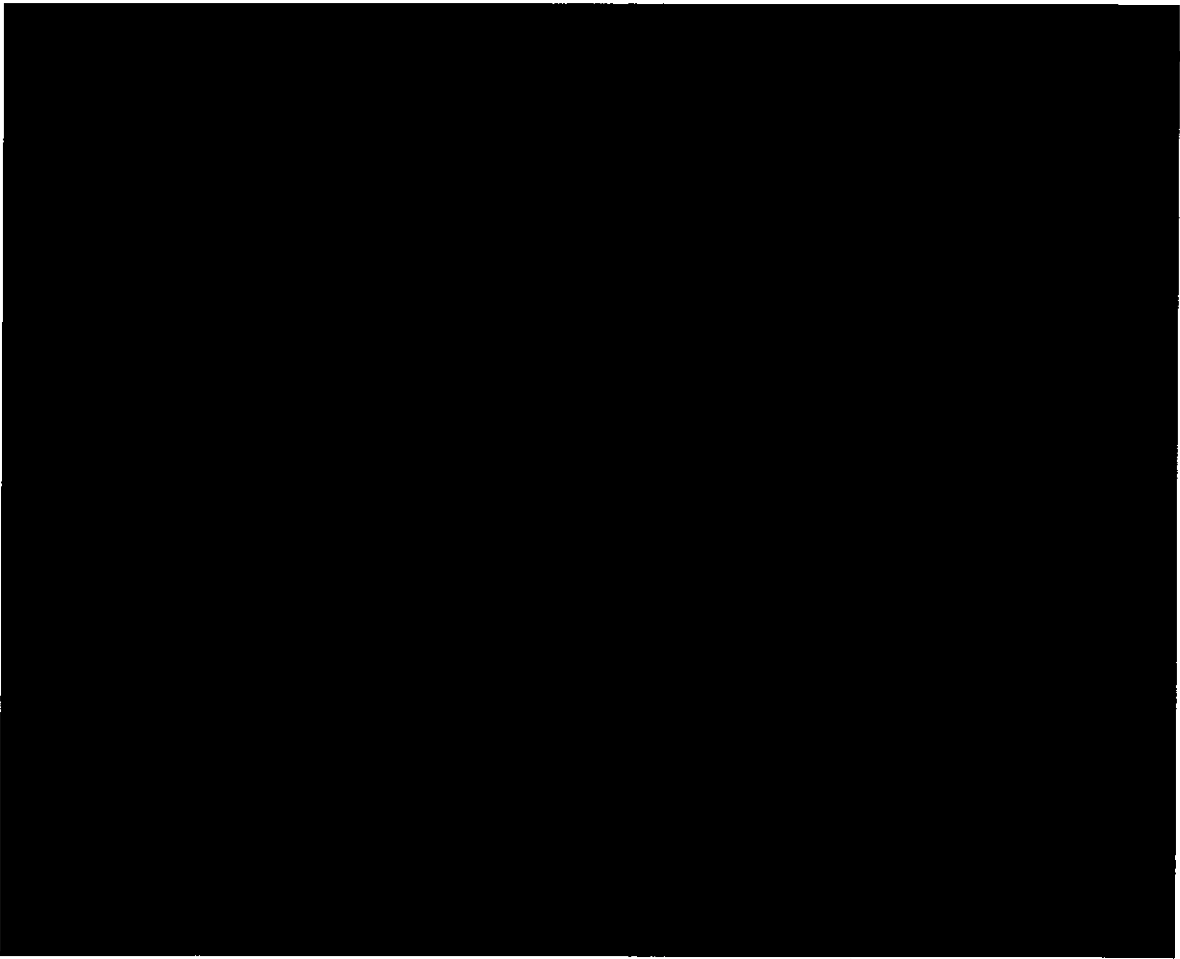
2 精神障害事案

(1) 

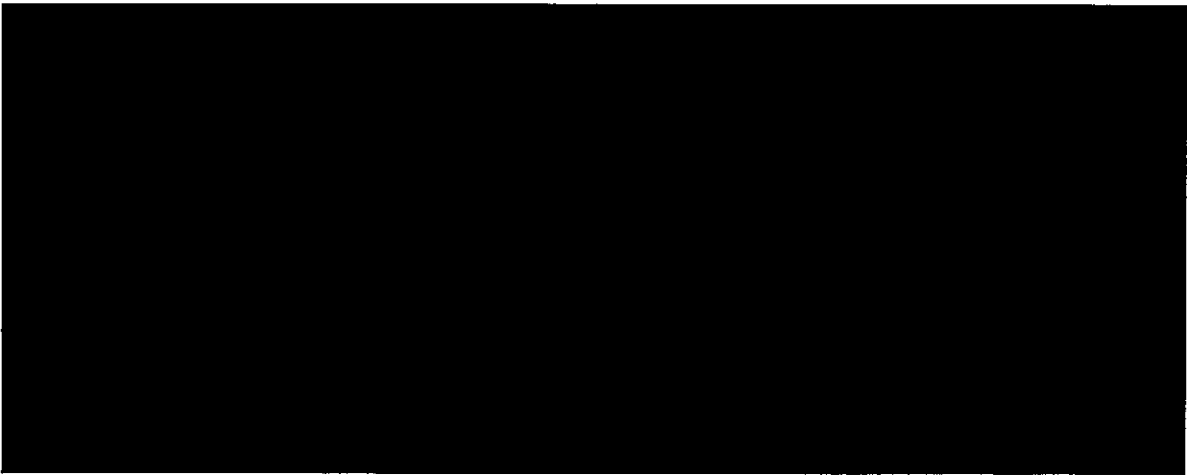


(2) 





(3)



# < 目 次 >

## 1 脳・心臓疾患事案判決

### ○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 大阪地裁判決 (9、10頁)		くも膜下出血、拘束時間の長い業務

### ● 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 福岡地裁判決 (11、12頁)		休憩時間中の作業、時間外労働時間
2	平成■年■月■日 静岡地裁判決 (13、14頁)		異常な出来事(寒冷曝露)、高齢者
3	平成■年■月■日 東京地裁判決 (15、16頁)		海外出張による疲労の蓄積、疲労の回復・解消
4	平成■年■月■日 大阪地裁判決 (17、18頁)		発症前36か月頃からの長時間労働による疲労の蓄積、月45時間を超える時間外労働による疲労の継続

## 2 精神障害事案判決

### ○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 横浜地裁判決 (19、20頁)		業務の追加、稼働開始 時期の遅れ
2	平成■年■月■日 東京高裁判決 (21、22頁)		上司による事情聴取、 警察の取調べ、ポリグ ラフ検査
3	平成■年■月■日 名古屋地裁判決 (23、24頁)		発病後の悪化
4	平成■年■月■日 熊本地裁判決 (25、26頁)		発病の有無、ICD- 10の診断基準
5	平成■年■月■日 大阪高裁判決 (27、28頁)		発病後の悪化、特別な 出来事、作業効率の低 下

### ● 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 新潟地裁判決 (29、30頁)		業務上 のミス、上司からの指 導・叱責
2	平成■年■月■日 東京地裁判決 (31、32頁)		アルコール 検知、重大な仕事上 のミス、懲戒解雇処分

3	平成■年■月■日 長崎地裁判決 (33、34頁)		「うつ病」の発病時期、ICD-10の診断基準
4	平成■年■月■日 東京高裁判決 (35、36頁)		上司の主観に左右される合格判定、上司の執拗な業務指導、面目を失わせる
5	平成■年■月■日 秋田地裁判決 (37、38頁)		入社から所定始業時刻までの時間
6	平成■年■月■日 東京地裁判決 (39、40頁)		発病前6か月より前の出来事、海外プロジェクト

### 3 その他の事案判決

#### (1) 高次脳機能障害・軽度外傷性脳損傷 (MTBI)

##### ○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 京都地裁判決 (41、42頁)		高次脳機能障害、画像所見、意識障害
2	平成■年■月■日 横浜地裁判決 (43、44頁)		軽度外傷性脳損傷 (MTBI)、画像所見、WHO定義、神経学的検査

#### (2) 脳脊髄液減少症

##### ○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 静岡地裁判決 (45、46頁)		脳脊髄液減少症、起立性頭痛、ブラッドパッチ療法



(3) 振動障害

● 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 高知地裁判決 (47、48頁)		頸椎症性脊髄症

(4) その他の疾病

○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 (49、50頁)		化学物質(ジアニジン等)、口腔がん
2	平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 (51、52頁)		気管支喘息、2-アミノエタノール、水酸化ナトリウム
3	平成■■年■■月■■日 大阪高裁判決 (53、54頁)		糖尿病、長時間労働、睡眠不足

(5) 治ゆ

○ 勝訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 (55、56頁)		「治ゆ」の概念、治ゆに至るまでの期間及び症状・治療の経過

(6) 障害等級

● 敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■■年■■月■■日 横浜地裁判決 (57、58頁)		CRPS(複合性局所疼痛症候群)、特殊な性状の疼痛

(7) 労働不能

●敗訴

NO	判決日・裁判所	判決の概要	キーワード
1	平成■年■月■日 札幌地裁判決 (59、60頁)		「労働することができない」の判断、休業の必要性、就労前後の症状の比較

○〔脳心1〕平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

[ ]

キーワード：くも膜下出血、拘束時間の長い業務

1 事件の概要

[ ]

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 判断枠組み

[ ]

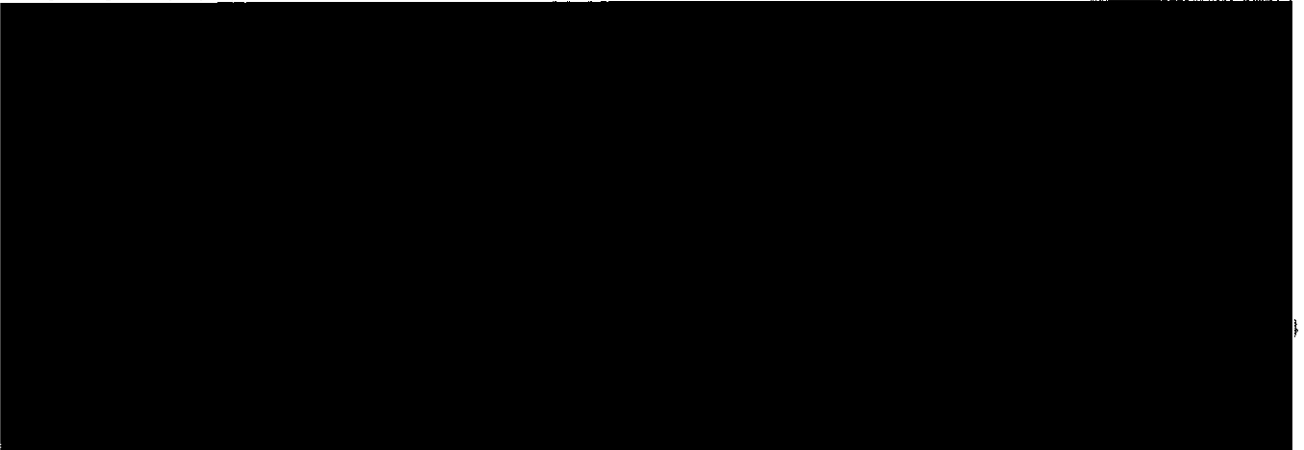
(2) 時間外労働時間

[ ]

(3) その他の負荷要因



(4) リスクファクター



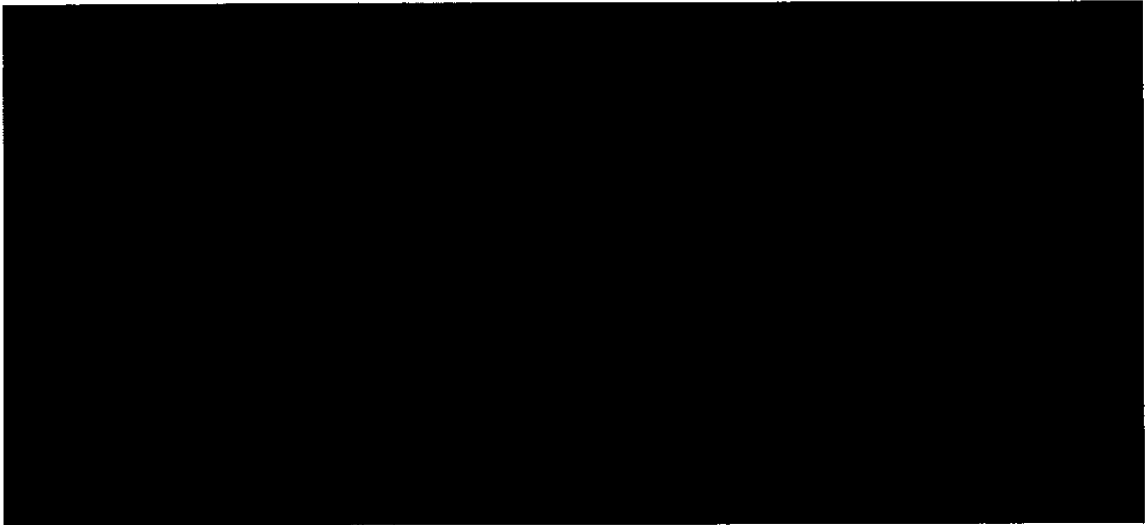
(5) 結論



3 勝訴要因

	項 目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	労働密度の低さについての主張・立証	
2	リスクファクターについての主張・立証	





3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	労働時間の算定		
2	「死因」の医学的な立証		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	亡夫が、休憩時間中の積荷の仕分作業に従事していたか否かについての調査	
2	「死因」の医学的な立証	

○〔脳心2〕平成██年██月██日 静岡地裁判決 国敗訴（確定）



キーワード：異常な出来事（寒冷曝露）、高齢者

1 事件の概要



2 判決要旨（国敗訴）

(1) 判断枠組み

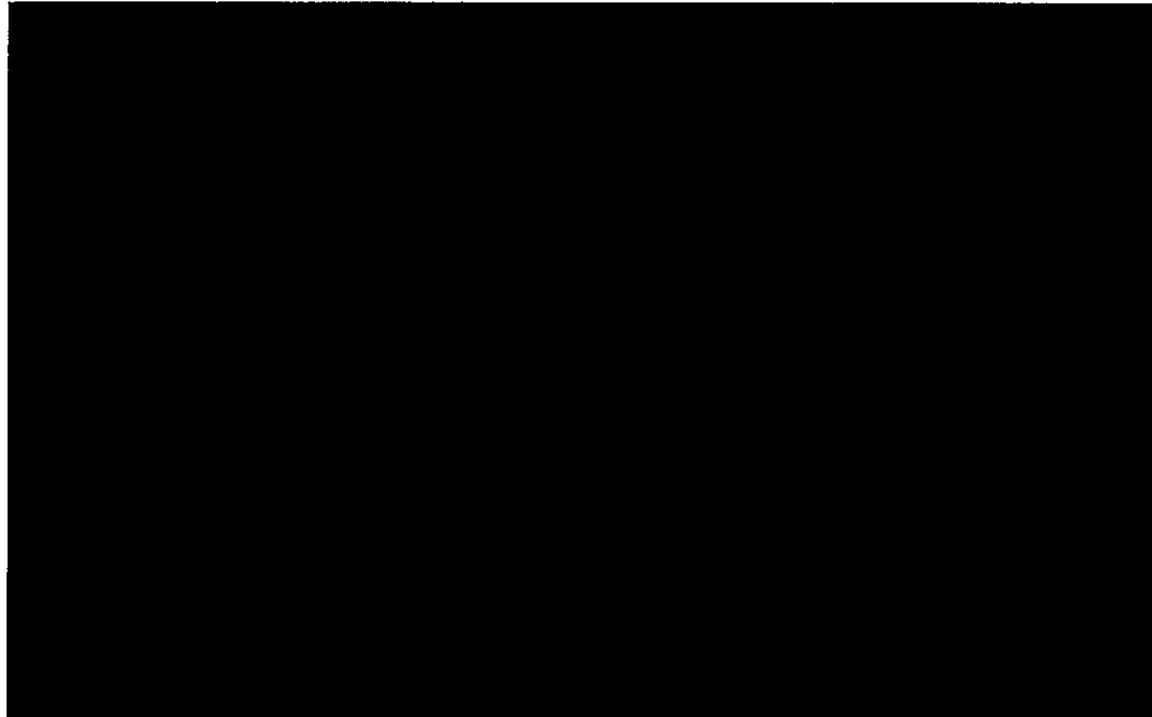


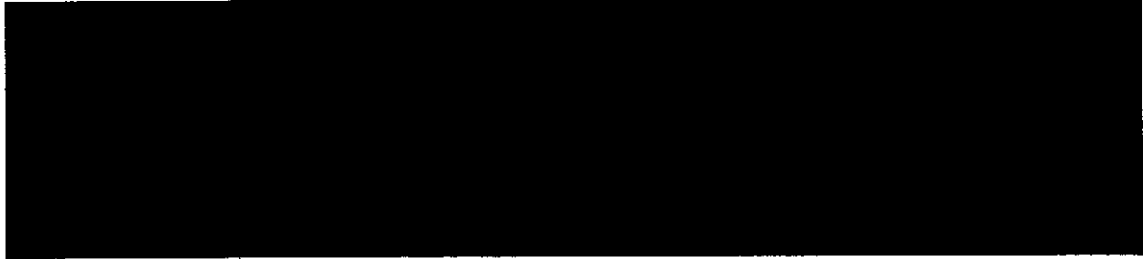
(2) 業務起因性

ア 本件疾病の発症機序

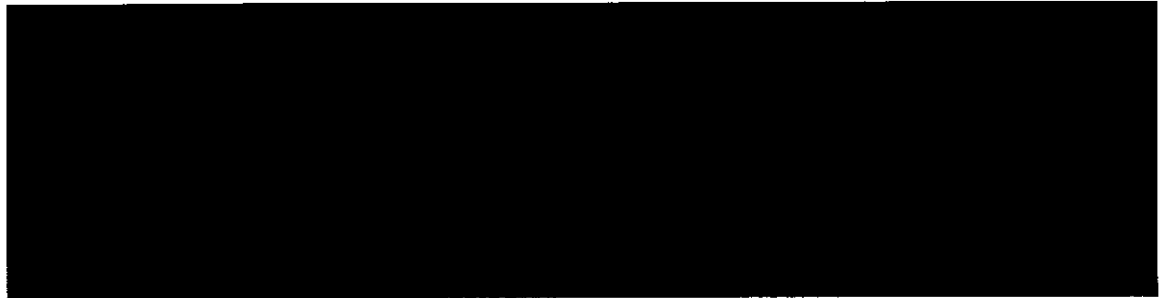


イ 「異常な出来事」該当性





ウ リスクファクター



エ 結論



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	「異常な出来事」の該当性		
2	リスクファクター		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	被災当日の作業環境や作業内容についての調査	
2	リスクファクターについての主張・立証	







3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	発症前6か月間の時間外労働		
2	■■■■の業務の過重性		
3	蓄積した疲労の回復		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	■■■■の過重性についての検討	
2	脳梗塞の発生機序についての医学的な検討	

○【脳心4】平成■年■月■日 大阪地裁判決 国敗訴（控訴審係争中）

[Redacted]

キーワード：発症前36か月頃からの長時間労働による疲労の蓄積、  
月45時間を超える時間外労働による疲労の継続

1 事件の概要

[Redacted]

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 判断枠組み

[Redacted]

(2) 業務起因性

ア 本件疾病の発症機序

[Redacted]

イ 発症前6か月間の業務の過重性

[Redacted]

ウ 発症前6か月より前の業務の過重性

[Redacted]

エ リスクファクター



オ 結論



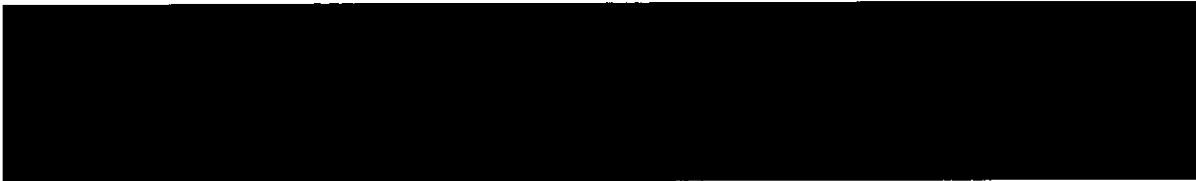
3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	発症前6か月より前の業務の評価	[Redacted]	[Redacted]
2	リスクファクターの評価		

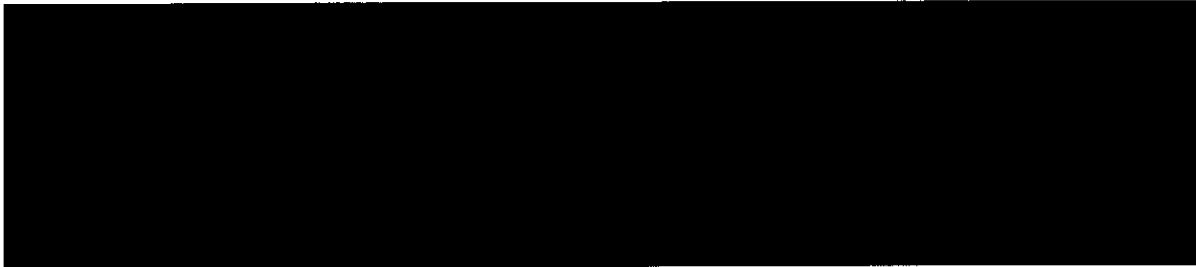
4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	発症前6か月より前の業務の評価についての医学的根拠の主張・立証	[Redacted]
2	発症前6か月より前の業務の過重性についての予備的主張	
3	虚血性心不全の発症機序についての医学的な検討	

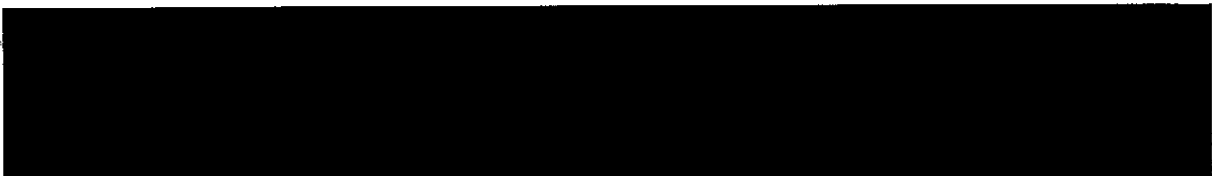




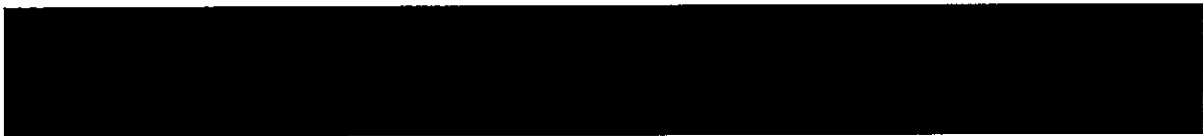
ウ 上記ア、イの出来事の総合評価



エ 長時間労働



オ 結論



3 勝訴要因

	項 目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	稼働時期の遅れは亡夫の責任ではないことの立証	
2	8月の時間外労働時間数が100時間超となったのは業務の繁忙によるものであることの立証	

- [精神2] 平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴 (上告受理申立中)  
(平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 (原告控訴) )

[REDACTED]

キーワード：上司による事情聴取、警察の取調べ、ポリグラフ検査

1 事件の概要

[REDACTED]

2 判決要旨 (国勝訴) (第一審判決からの引用を含む)

(1) 判断枠組み

[REDACTED]

(2) 発病時期及び評価の対象とする出来事

[REDACTED]

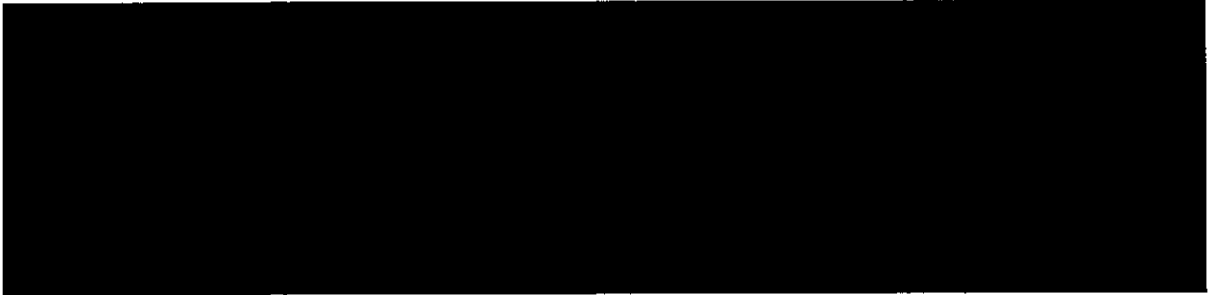
(3) 業務起因性

ア 本件紛失事故前の上司からの嫌がらせ

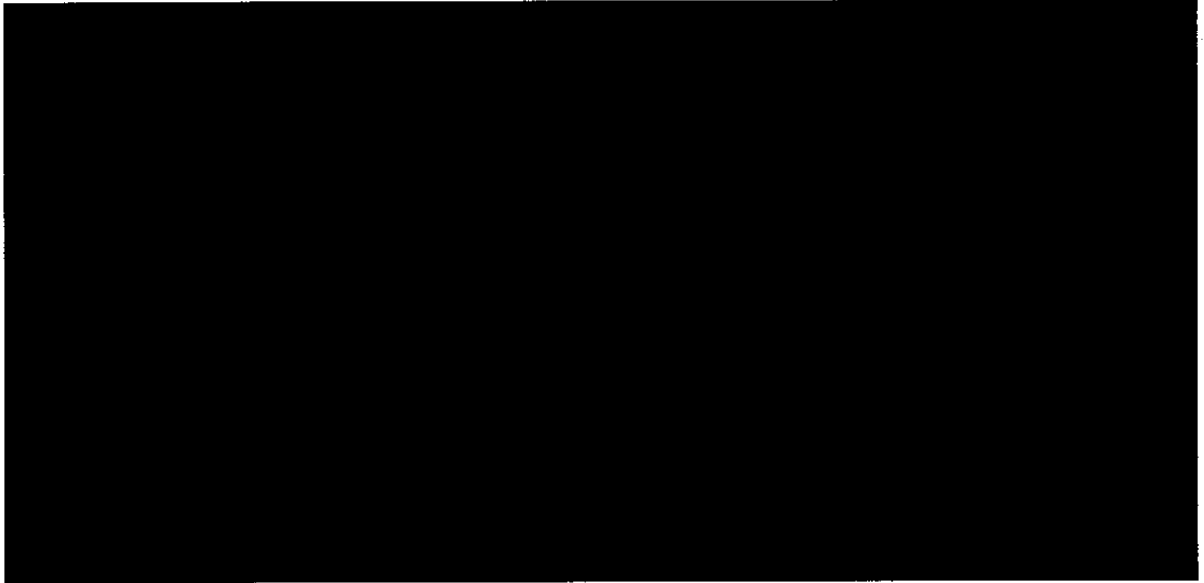
[REDACTED]

イ 本件紛失事故に関する上司からの事情聴取

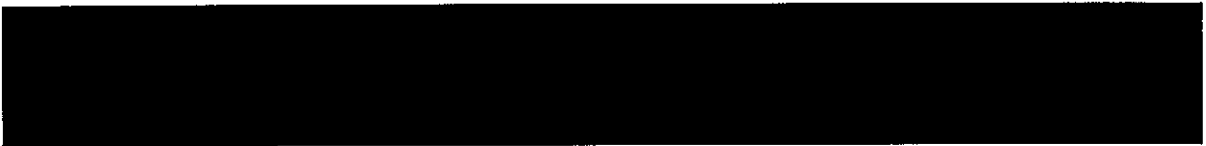
[REDACTED]



ウ 本件紛失事故に関する警察によるポリグラフ検査を含む取調べ



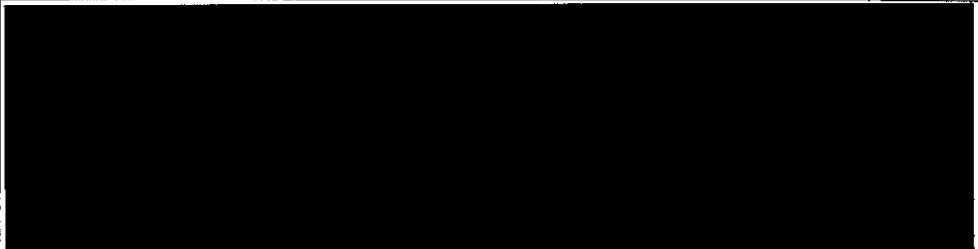
エ 時間外労働時間



オ 結論



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	出来事の心理的負荷の予備的主張	



○ [精神3] 平成██年██月██日 名古屋地裁判決 国勝訴（確定）

[██  
██  
██]

キーワード：発病後の悪化

1 事件の概要

██  
██  
██  
██

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 本件疾病の発病

ア 発病時期

██

イ 業務起因性

██  
██  
██  
██  
██  
██

(2) 本件疾病の発病後の悪化の判断枠組み

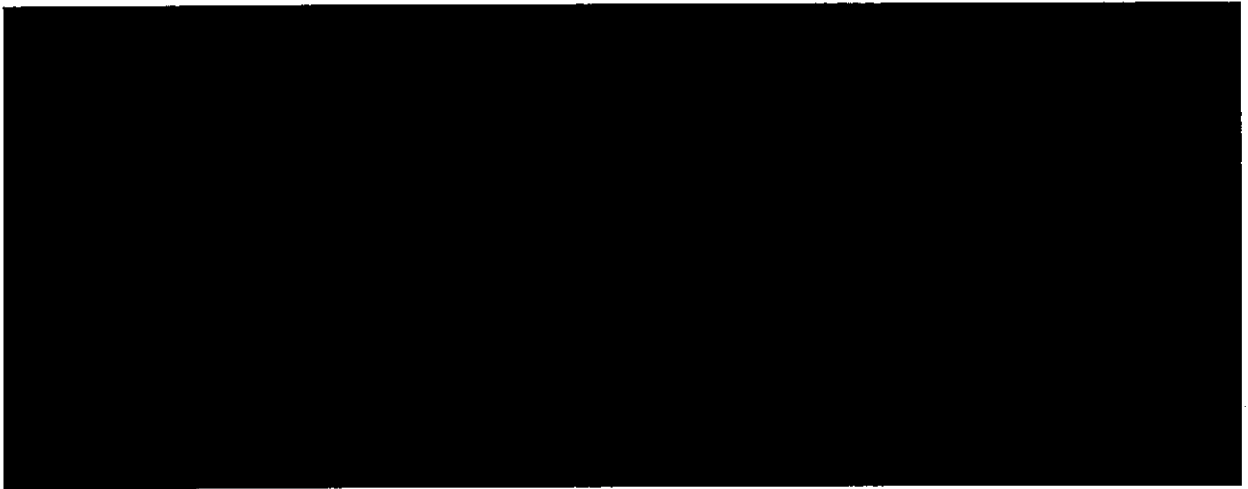
██  
██  
██  
██  
██  
██  
██  
██  
██  
██

(3) 本件疾病の発病後の悪化の業務起因性

ア 本件疾病の悪化の状況

██  
██  
██  
██

イ 本件疾病の悪化当時の出来事の心理的負荷の評価



ウ 結論



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	発病後の悪化の認定要件についての主張	

○〔精神4〕平成■年■月■日 熊本地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

[  
[

キーワード：発病の有無、ICD-10の診断基準

1 事件の概要

[

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 判断枠組み

[

(2) 発病の有無

ア ICD-10の診断基準に基づく検討

[

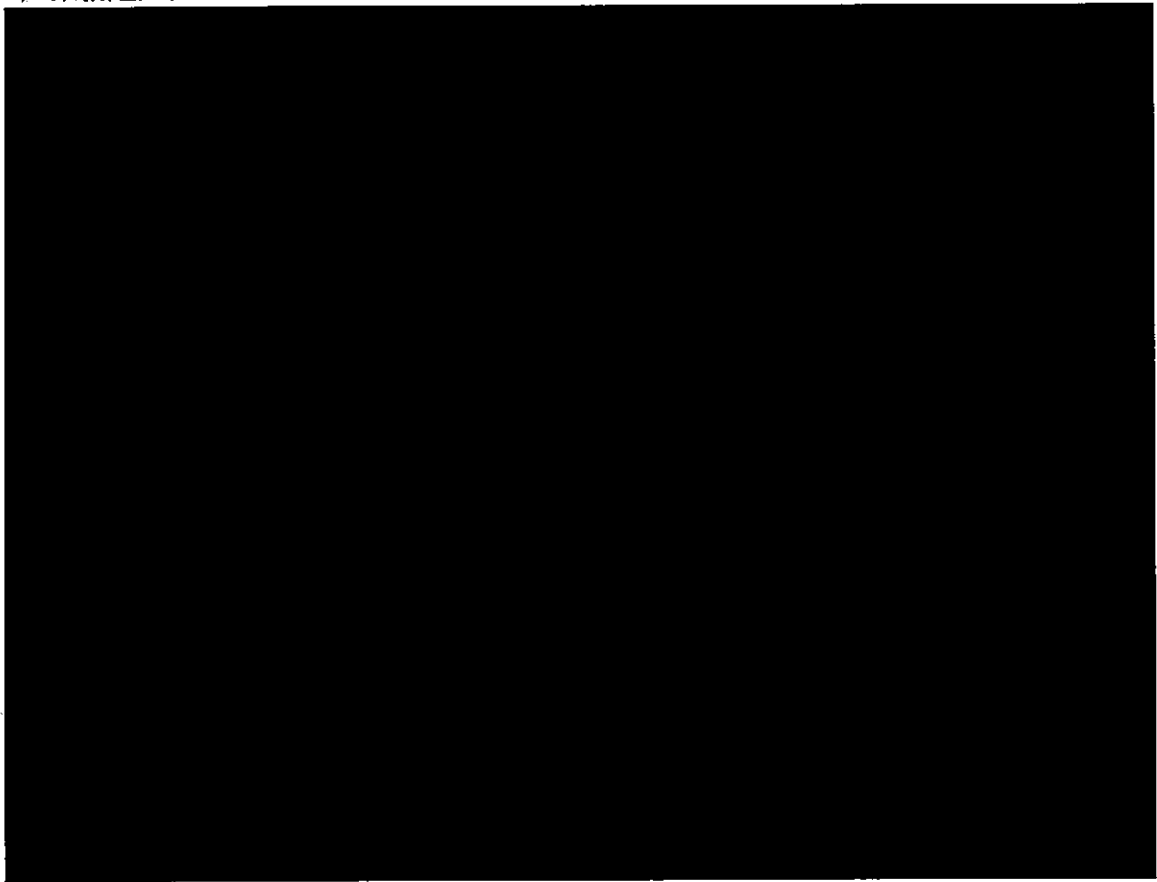
イ 勤務状況

[

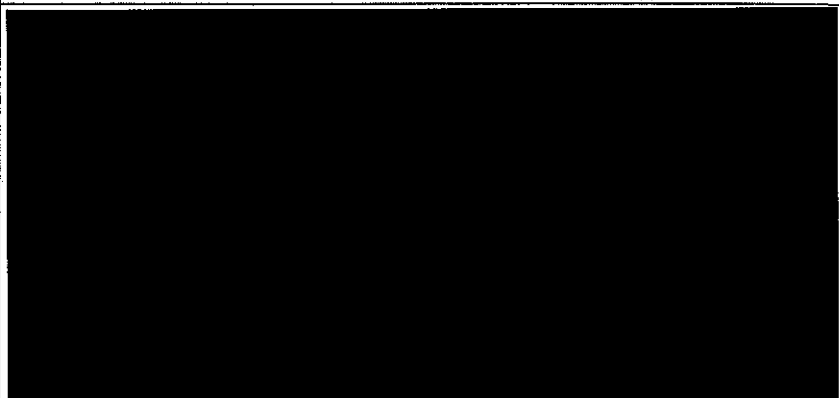
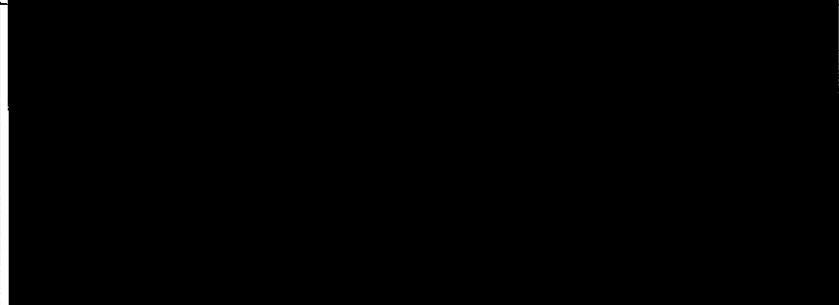
ウ 結論

[

(3) 業務起因性



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	精神障害の発病の有無についての医学的な主張・立証	
2	原告の心理的負荷の状況についての主張・立証	

- 〔精神5〕平成■■年■月■■日 大阪高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）  
（平成■■年■月■■日 大阪地裁判決 国勝訴（原告控訴））



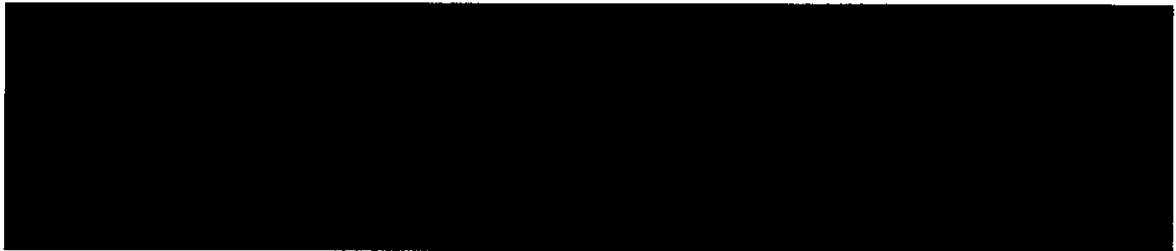
キーワード：発病後の悪化、特別な出来事、作業効率の低下

1 事件の概要



2 判決要旨（控訴審）（国勝訴）

(1) 判断枠組み



(2) 本件対象疾病及び発病時期

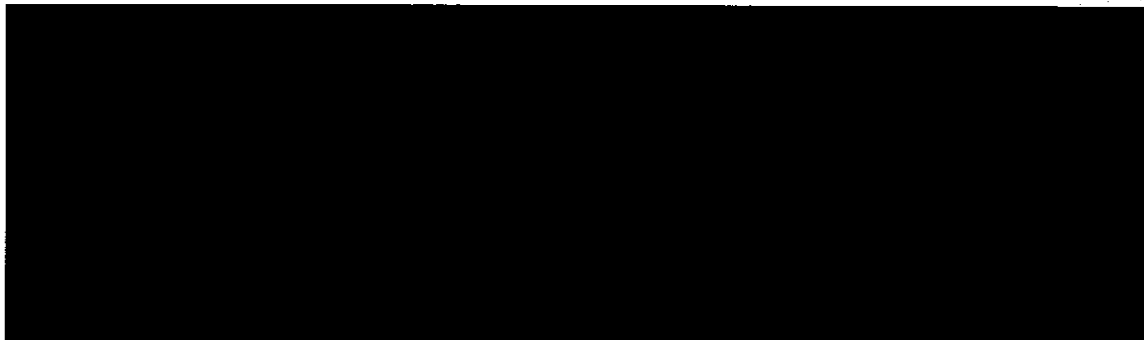


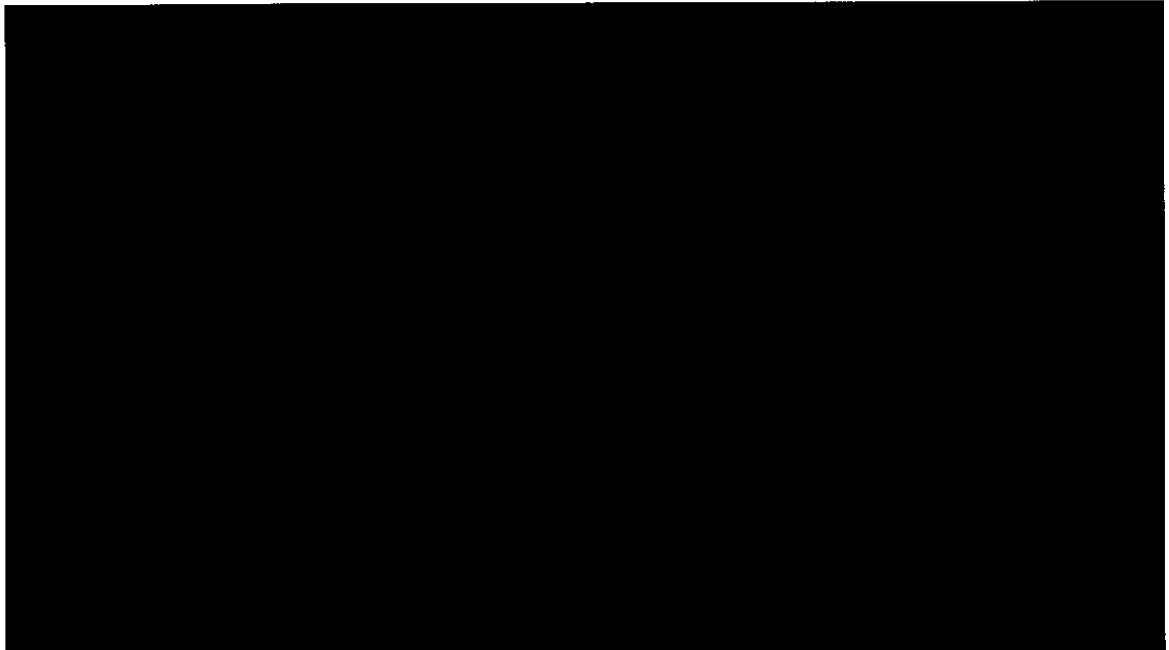
(3) 業務起因性

ア 適応障害

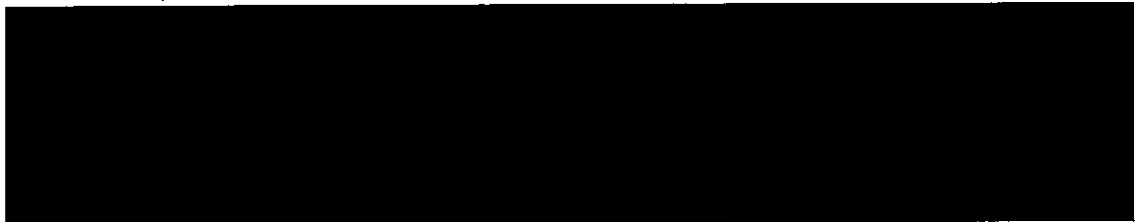


イ うつ病





ウ 重症うつ病エピソード



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント(主張、証拠)
1	発病後の悪化についての主張・立証	
2	発病後の時間外労働時間数の評価についての主張・立証	



[Redacted]

ウ 総合評価

[Redacted]

エ 結論

[Redacted]

3 国の主張と判決の主な相違点

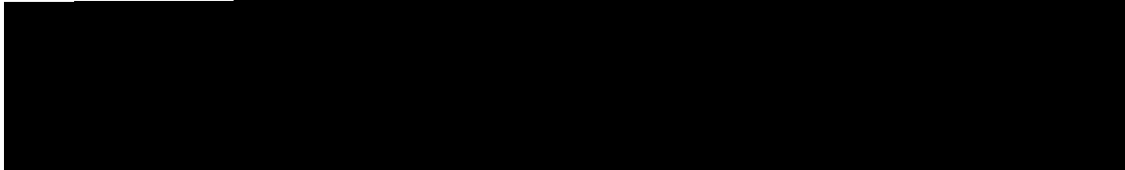
	項目	国の主張	判決
1	■月■日の 本件ミスの 心理的負荷	[Redacted]	[Redacted]
2	■月■日の 班長からの 指導・叱責の 心理的負荷	[Redacted]	[Redacted]

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	■ を基準とした 心理的負荷の 検討	[Redacted]







ウ 業務以外の出来事



エ 結論



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	精神障害の発病の有無		
2	心理的負荷の評価		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	精神障害の発病の有無	
2	出来事の心理的負荷についての主張・立証	



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	精神障害の発病時期		
2	出来事の心理的負荷の主張・立証		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	精神障害の発病時期についての主張・立証	
2	出来事の心理的負荷についての予備的主張	



ウ D小学校での交通安全教室

エ 結論

3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	精神障害の発病時期		
2	心理的負荷の評価		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	精神障害の発病時期についての主張・立証	
2	心理的負荷の評価についての予備的主張	

※7回の期日で結審



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	出社から所定始業時刻までの労働時間の算定		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	出社から所定始業時刻までの就業実態についての調査	



○ [精神6] 平成 年 月 日 東京地裁判決 国敗訴 (確定)

[REDACTED]

キーワード：発病前6か月より前の出来事、海外プロジェクト

1 事件の概要

[REDACTED]

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) 判断枠組み

[REDACTED]

(2) 発病時期

[REDACTED]

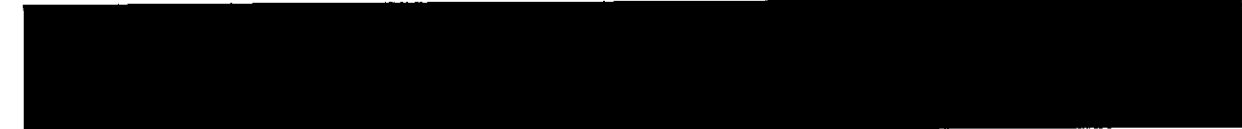
(3) 業務起因性

ア 発病前6か月より前の出来事の考慮

[REDACTED]

イ 出来事の心理的負荷の評価

[REDACTED]



ウ 業務以外の出来事の評価



エ 結論



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	発病時期		
2	出来事の評価期間		
3	出来事の心的負荷の評価		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	発病時期についての主張・立証	
2	予備的主張	

○〔高次脳機能障害〕平成■年■月■日 京都地裁判決 国勝訴（控訴審係争中）

[REDACTED]

キーワード：高次脳機能障害、画像所見、意識障害

1 事件の概要

[REDACTED]

2 判決要旨（国勝訴）

(1) 適用する障害等級認定基準

[REDACTED]

(2) 高次脳機能障害の障害等級

ア 画像所見

[REDACTED]

イ 本件事故直後の意識障害の程度

[REDACTED]

ウ 原告の症状の経過等

[Redacted]

エ 障害等級

[Redacted]

(3) 頸部及び腰部の神経症状の障害等級

[Redacted]

(4) 結論

[Redacted]

3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	高次脳機能障害の医学的知見についての主張・立証	[Redacted]

【平成26年度勝訴判決】

○ [MTBI] 平成 年 月 日 横浜地裁判決 国勝訴(原告控訴)  
(平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴(上告受理申立中))

キーワード：軽度外傷性脳損傷 (MTBI)、画像所見、WHO定義、神経学的検査

1 事件の概要

[Redacted]

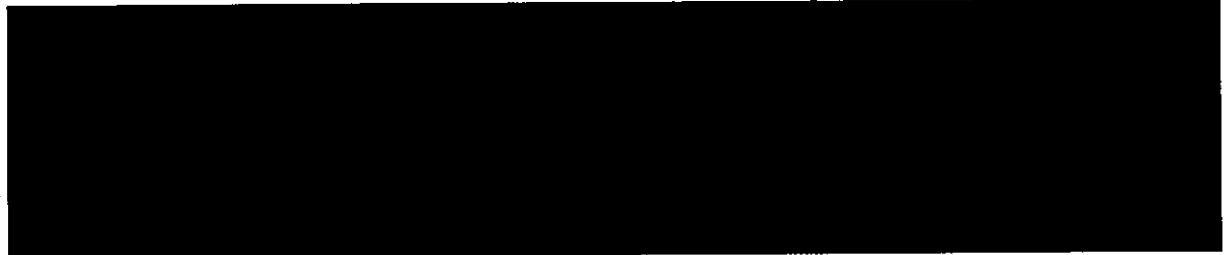
2 判決要旨 (国勝訴)

(1) 原告の画像所見

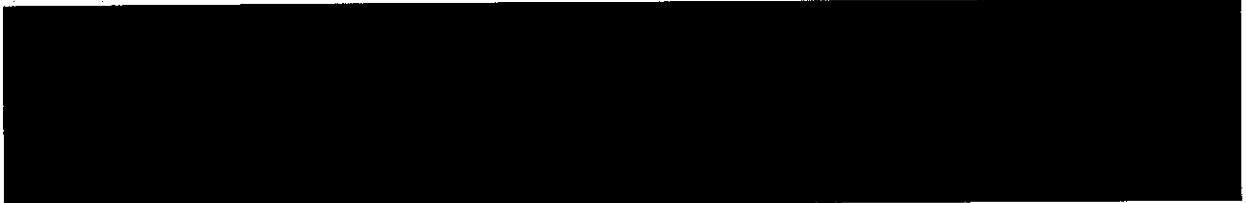
[Redacted]

(2) 本件事故から間もない頃の原告の症状

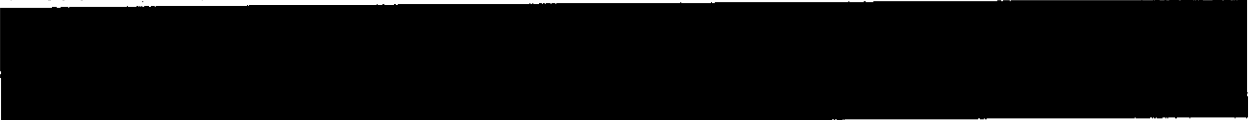
[Redacted]



(3) WHO定義



(4) 神経学的検査



(5) 結論



3 勝訴要因

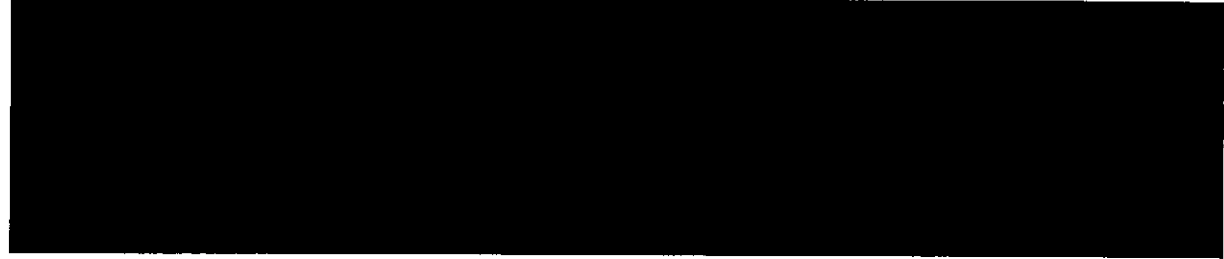
	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	画像所見が見られないことについての医学的知見の主張・立証	[Redacted]
2	受傷後数年を経過した後に脳損傷の症状が現れることはないことについての医学的知見の主張・立証	
3	神経学的検査についての医学的知見の主張・立証	

- [脳脊髄液減少症] 平成■■年■■月■■日 静岡地裁判決 国勝訴（原告控訴）  
（平成■■年■■月■■日 東京高裁判決 国勝訴（確定））



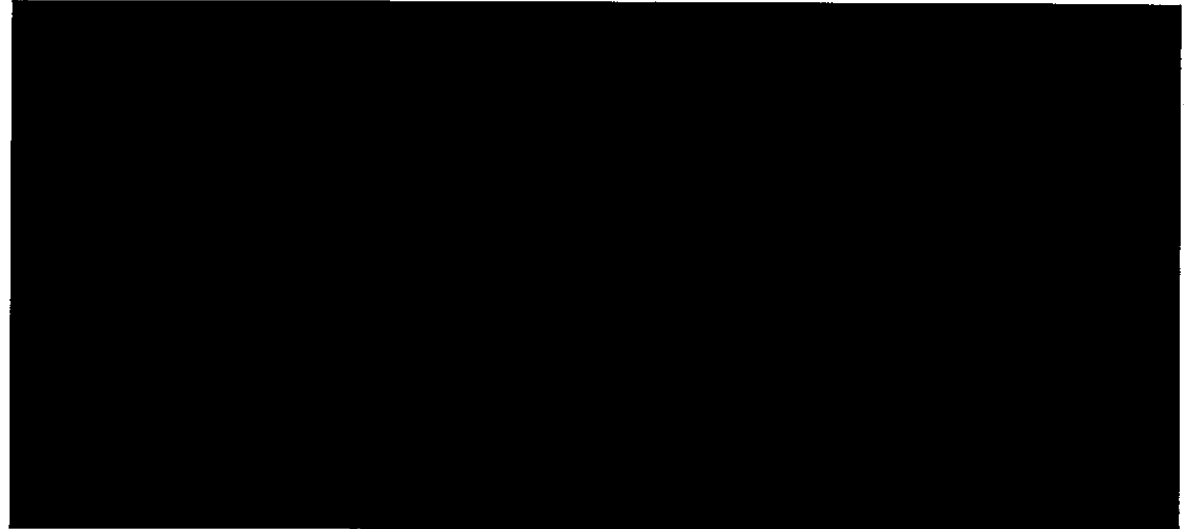
キーワード：脳脊髄液減少症、起立性頭痛、ブラッドパッチ療法

1 事件の概要

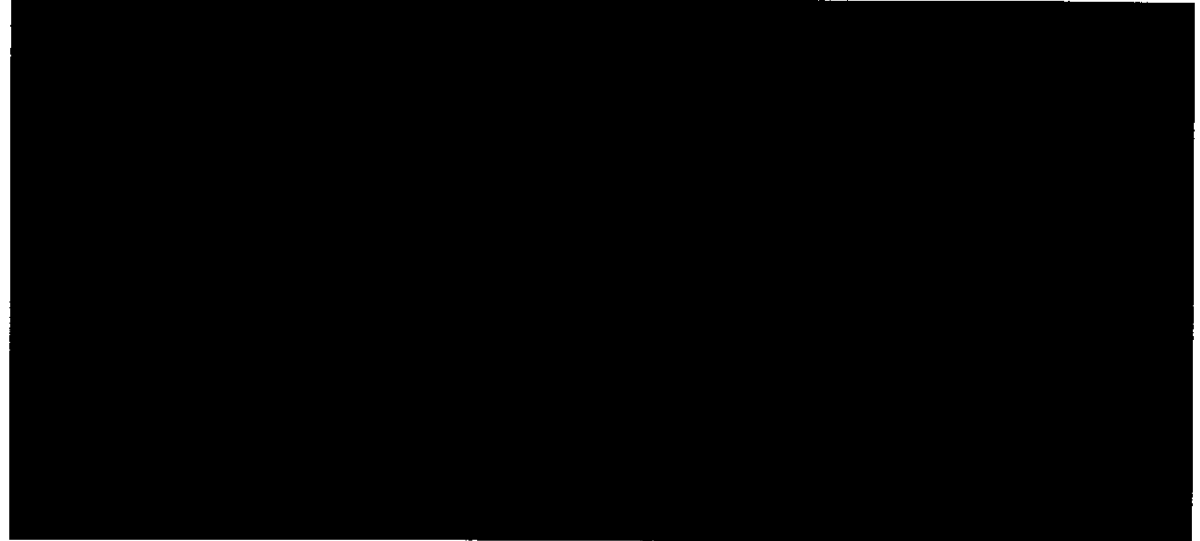


2 判決要旨（国勝訴）

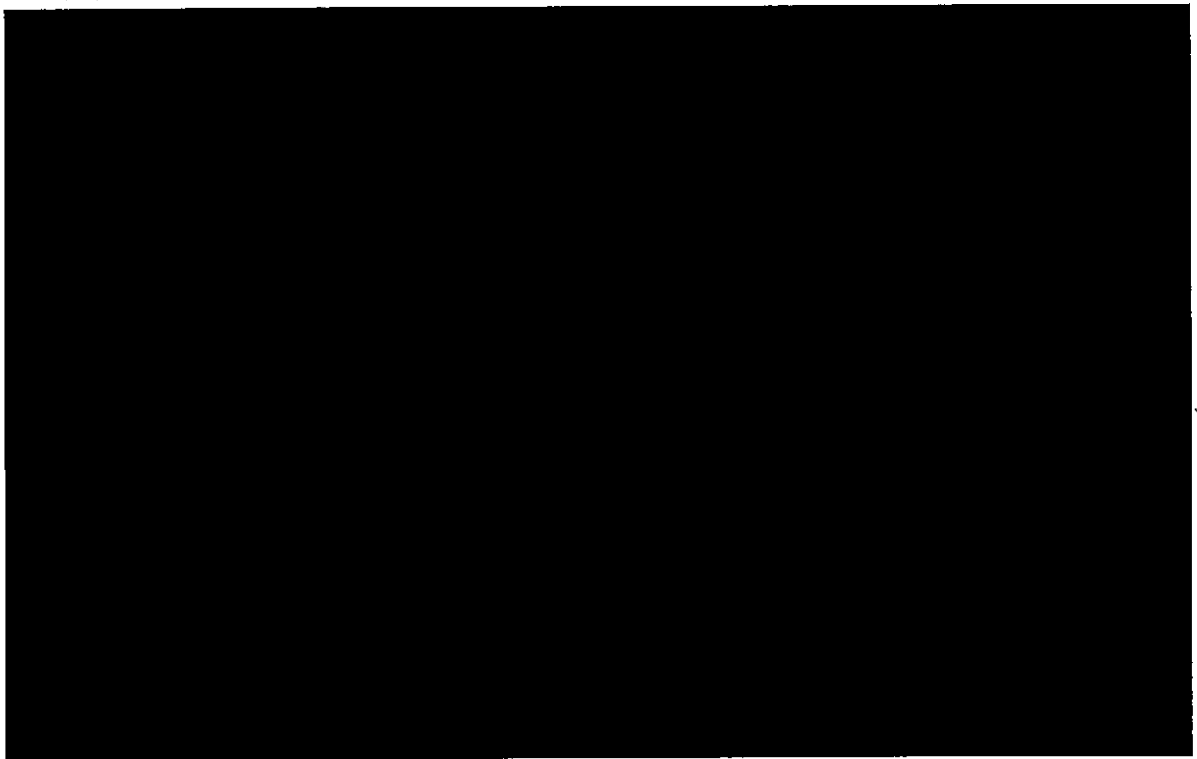
(1) 判断枠組み



(2) 業務起因性



(3) 付言 (ブラッドパッチ療法の「療養」非該当性)



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント (主張、証拠)
1	本件事故の負傷直後には頭痛の症状がなかったことの調査	
2	原告は、脳脊髄液減少症とは診断できないことの医学的な主張・立証	



○〔振動障害〕平成■■年■■月■■日 高知地裁判決 国敗訴（確定）

キーワード：頸椎症性脊髄症

1 事件の概要

2 判決要旨（国敗訴）

(1) 判断枠組み

(2) 業務起因性

ア 末梢循環障害

イ 末梢神経障害

ウ 運動機能障害

エ 業務起因性を否定する事情



オ 結論



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	3 障害の存否		
2	頸椎症性脊髄症を原因とするものか否か		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	頸椎症性脊髄症を原因とするものであることについての調査	

- 〔その他の疾病1〕平成■年■月■日 大阪高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）  
（平成■年■月■日 大阪地裁判決 国勝訴（原告控訴）、「平成24年度下半期主要判決」37～38頁参照）

[REDACTED]

キーワード：化学物質（ジアニシジン等）、口腔がん

1 事件の概要

[REDACTED]

2 判決要旨（国勝訴）

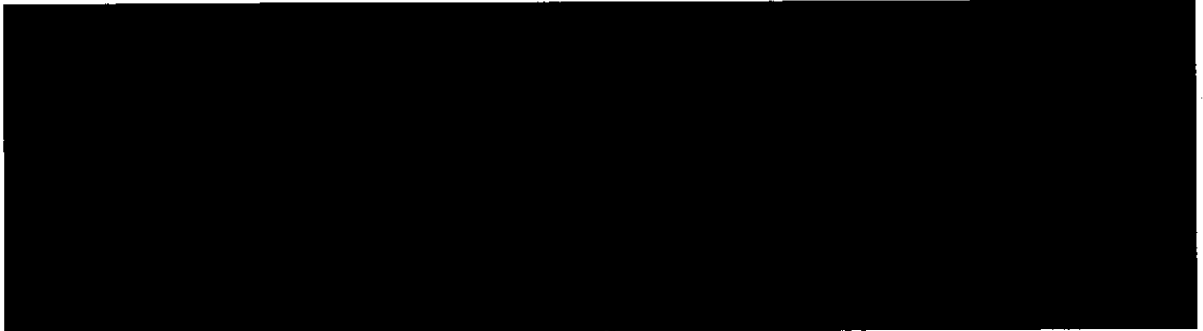
（1）判断枠組み

[REDACTED]

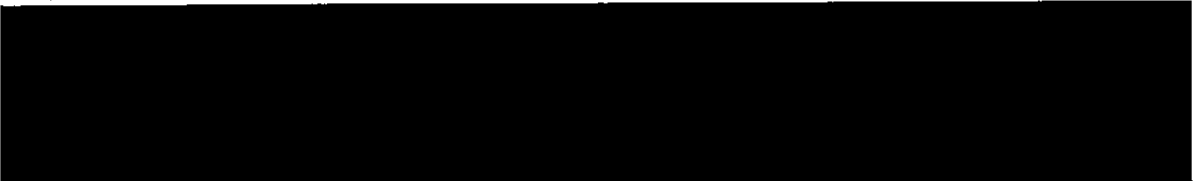
（2）業務起因性

[REDACTED]

イ 芳香族アミンのばく露による人の口腔がんの症例及び研究報告



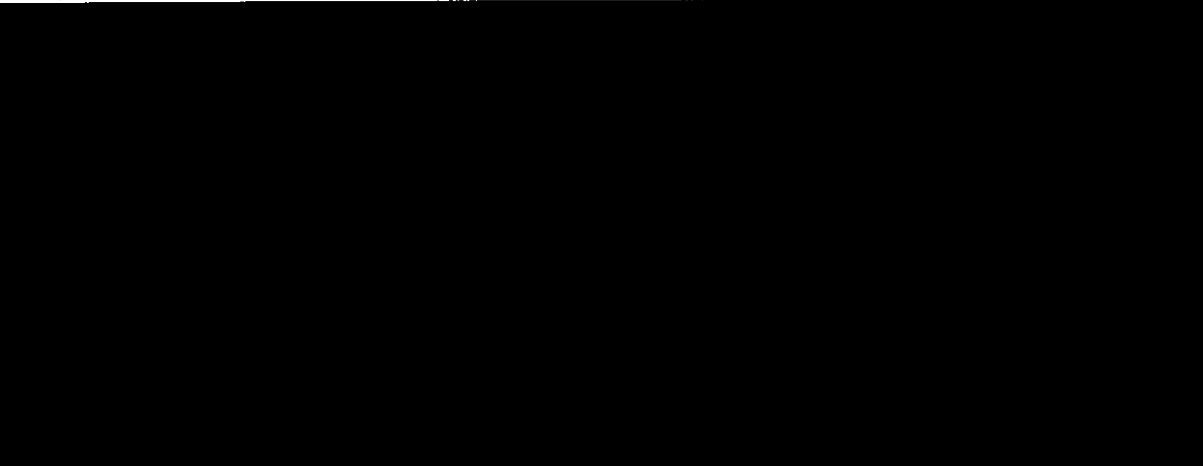
ウ 喫煙・飲酒の影響



エ 小括



オ その他の控訴人の主張



カ 結論



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	ジアニシジンばく露と本件疾病の発症との間の因果関係についての主張・立証	

○〔その他の疾病2〕平成 年 月 日 大阪高裁判決 国勝訴（上告受理申立中）  
（平成 年 月 日 大阪地裁判決 国勝訴（原告控訴））

[  
]  
]

キーワード：気管支喘息、2-アミノエタノール、水酸化ナトリウム

1 事件の概要

[  
]

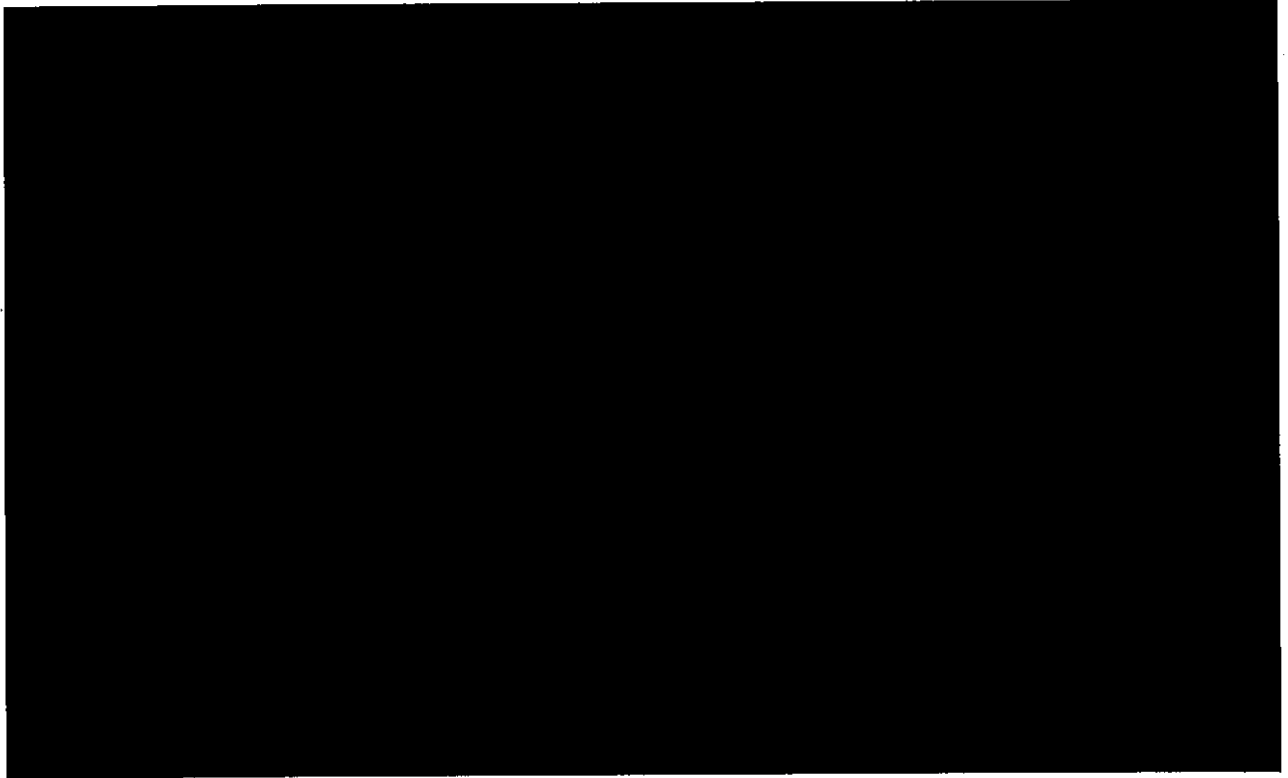
2 判決要旨（国勝訴）

(1) 判断枠組み

[  
]

(2) 業務起因性

[  
]  
]



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	本件洗剤の使用と控訴人の気管支喘息との間に相当因果関係が認められないことの主張・立証	



イ 控訴人の1日当たりの平均睡眠時間

ウ 医学的知見を踏まえた控訴人の2型糖尿病及び本件疾病の基本的増悪原因の検討

エ 疫学の観点からの検討

オ 結論

3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	控訴人の2型糖尿病の発病の機序等についての主張・立証	

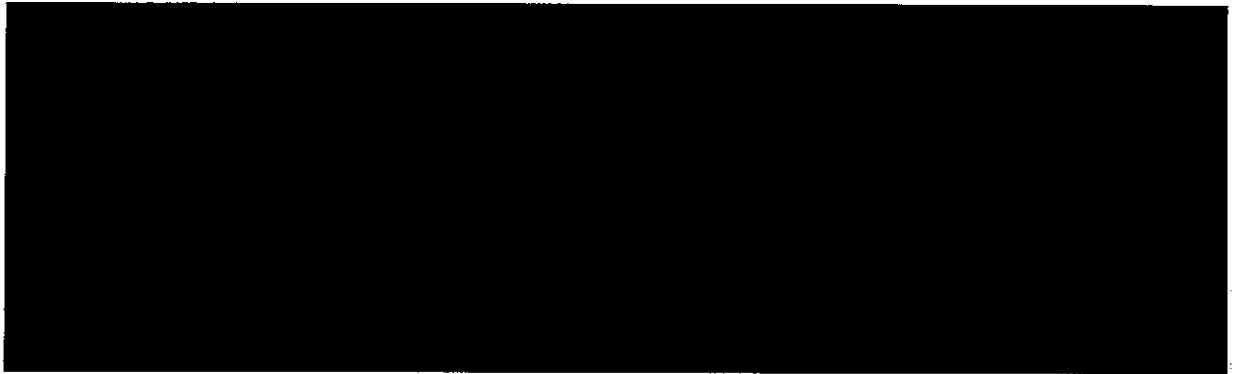


- [治ゆ] 平成 年 月 日 東京高裁判決 国勝訴 (確定)  
(平成 年 月 日 東京地裁判決 国勝訴 (原告控訴))



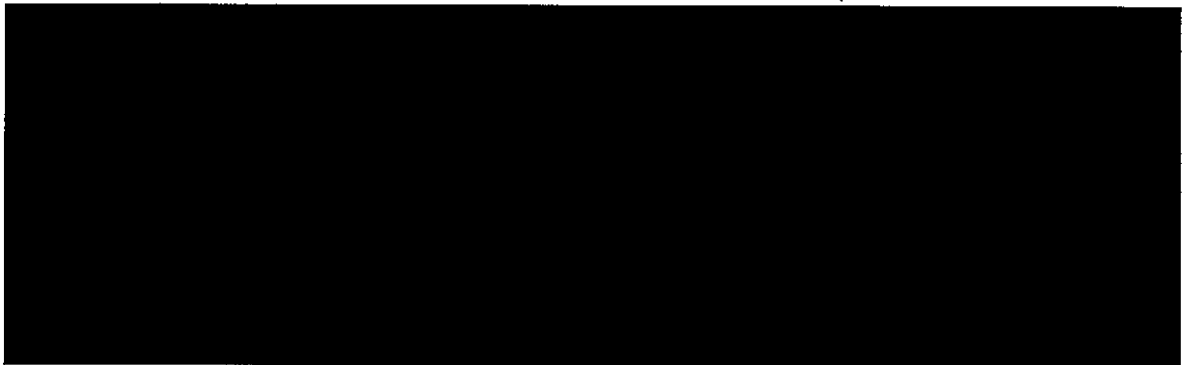
キーワード: 「治ゆ」の概念、治ゆに至るまでの期間及び症状・治療の経過

1 事件の概要

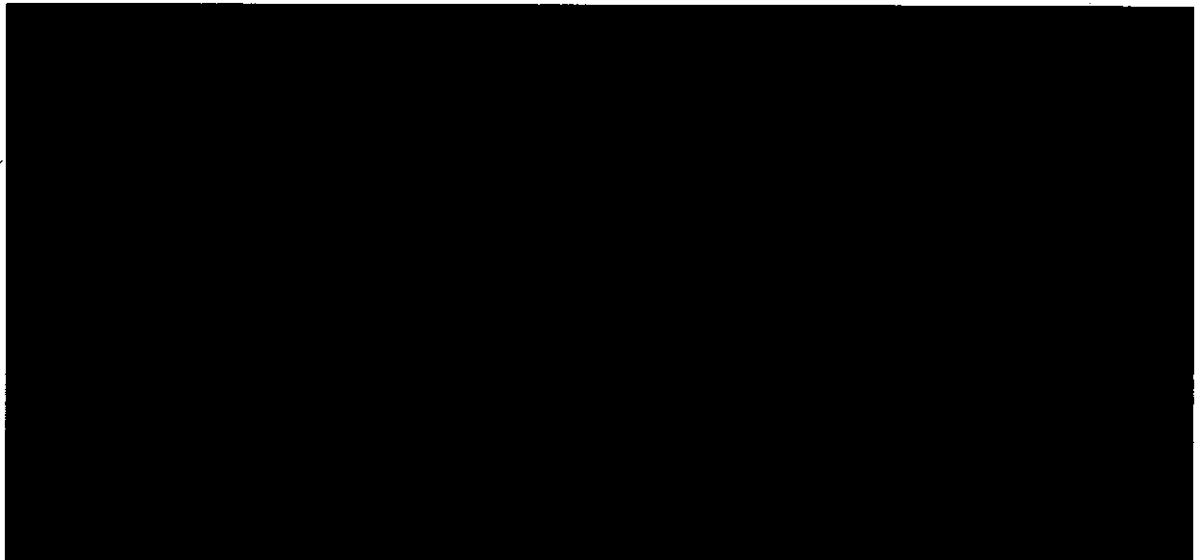


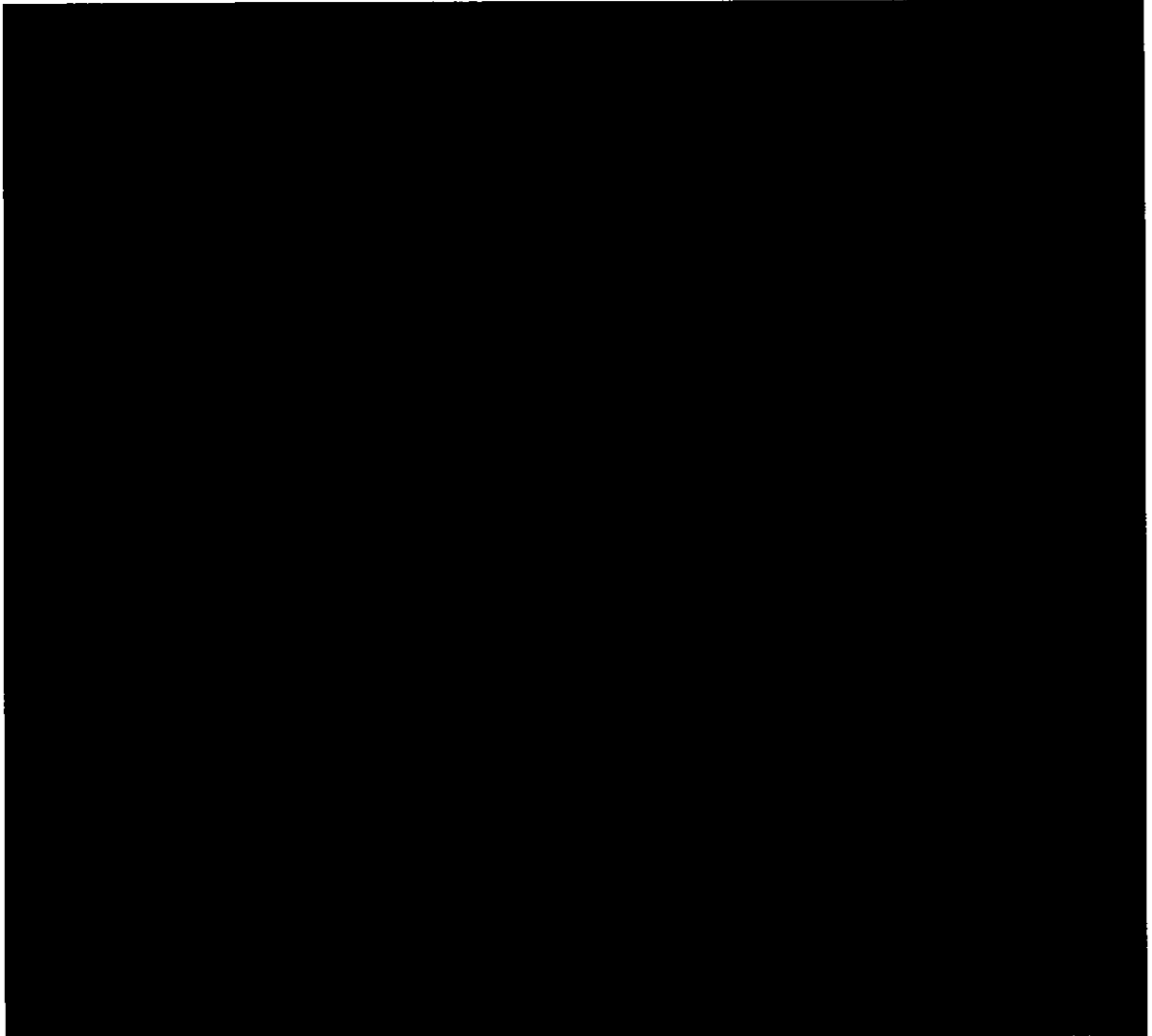
2 判決要旨 (国勝訴) (第一審判決からの引用を含む)

(1) 判断枠組み

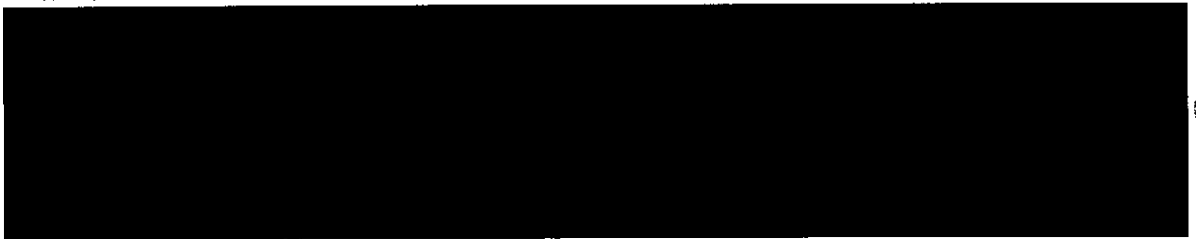


(2) 療養の必要性





(3) 結論



3 勝訴要因

	項目	国の主張が認められたポイント（主張、証拠）
1	「治ゆ」の状態にあることの医学的な主張・立証	

○ [障害等級] 平成■■年■月■■日 横浜地裁判決 国敗訴 (確定)

[REDACTED]

キーワード: CRPS (複合性局所疼痛症候群)、特殊な性状の疼痛

1 事件の概要

[REDACTED]

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) 判断枠組み

[REDACTED]

(2) 本件後遺障害の判断

[REDACTED]

3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	本件後遺障害の判断		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	本件後遺障害の判断	

○ [労働不能] 平成 年 月 日 札幌地裁判決 国敗訴 (確定)

キーワード: 「労働することができない」の判断、休業の必要性、就労前後の症状の比較

1 事件の概要

2 判決要旨 (国敗訴)

(1) 判断枠組み

(2) 労災保険法14条1項の「労働することができない」との要件の判断



3 国の主張と判決の主な相違点

	項目	国の主張	判決
1	「労働することができない」の判断 枠組み		
2	C事務所就労後の 症状が改善してい るか否かの判断		

4 敗訴要因

	項目	敗訴した要因として考えられる事項
1	C事務所就労後の 症状についての医 学的な主張・立証	